鈴鹿亀山地区
高齢者介護に関する調査結果報告書
〔サービス提供事業所調査〕

令和 8 年 3 月

鈴鹿亀山地区広域連合

目次

Ⅰ　調査の概要.....**1**
1　調査の目的.....1
2　調査の方法.....1
3　配布・回収数.....1
4　報告書の見方(注意事項).....1
Ⅱ　調査結果.....**2**
1　貴事業所の状況について.....2
2　介護サービスについて.....4
3　介護人材について.....24
4　施設・居住系の事業所における入退居の状況について.....34
5　生活支援サービスについて.....39
6　権利擁護について.....42
7　地域包括ケアについて.....47

Ⅰ　調査の概要

1　調査の目的

この調査は、令和 9 年度から実施する「第 10 期介護保険事業計画」の策定作業の中で、介護保険事業の円滑な実施と、高齢者の保健福祉サービスを充実させるための基礎資料として活用することを目的に実施したものです。

2　調査の方法

① 調査対象地域　鈴鹿亀山地区全域
② 調査対象者　鈴鹿亀山地区広域連合管内の介護保険サービスの提供事業所
③ 調査期間　令和 8 年 1 月(調査基準日は令和 8 年 1 月 1 日)
④ 調査方法　郵送によって配布し、調査票またはウェブにて回答・回収

3　配布・回収数

配布数	未着数	有効配付数	回収数	回収率	白紙等	有効回収数	有効回収率
395	2	393	329	83.7%	1	328	83.5%
うち調査票			154	39.2%	1	153	38.9%
うちウェブ			175	44.5%	―	175	44.5%

4　報告書の見方(注意事項)

① グラフおよび表中の n 数(number of cases)は、「無回答」や「不明」を除く回答者数を表しています。
② 調査結果(グラフおよび表中)の比率は、その設問の回答者数(n 数)を分母として、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出し、小数点以下第 1 位までを表示しています。したがって、端数処理のため、回答比率の合計は必ずしも 100%にならない場合があります。
③ 複数回答形式(複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問については、その設問の回答者数(n 数)を分母として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計が 100%を超えることがあります。
④ 令和 4 年度に実施した前回調査（第 9 期介護保険事業計画の策定にかかる調査）において同一の設問を行っている場合は、前回調査との比較を行っています。その際、前回調査については「第 9 期調査」と表示しています。
⑤ 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。

Ⅱ　調査結果

1　貴事業所の状況について

問 1　貴事業所の経営主体はどれですか。（複数選択可）
【第 10 期調査 n=326、第 9 期調査 n=347】

「株式会社」が 36.8%で最も多く、「社会福祉法人」が 28.2%で続いています。最も少ないのは「NPO 法人」で 4.0%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「株式会社」は 3.7 ポイント増加しました。法人形態としては、「株式会社」と「社会福祉法人」の割合が高く、これらが中心であることがうかがえます。

	第10期	第9期
社会福祉法人	28.2%	26.5%
株式会社	36.8%	33.1%
NPO法人	4.0%	5.5%
医療法人	11.0%	11.5%
有限会社	13.8%	18.7%
その他	6.1%	5.8%

問 2　貴事業所の運営（経営）状況はいかがですか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=315、第 9 期調査 n=335】

「ほぼ順調」が 57.5%で最も多く、「やや悪い」が 29.5%で続いています。最も少ないのは「非常によい」で 2.2%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「ほぼ順調」が 11.8 ポイント増加しました。「ほぼ順調」が増加している一方で、「やや悪い」も 3 割弱みられます。

	第10期	第9期
非常によい	2.2%	4.8%
ほぼ順調	57.5%	45.7%
やや悪い	29.5%	41.2%
非常に悪い	10.8%	8.4%

問 3　介護保険制度が導入されてから現在までに、以下の経営改善等に関することを行いましたか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=314、第 9 期調査 n=326】

「従事者研修を実施した」が 56.1%で最も多く、「従事者を確保又は増員した」が 52.5%で続いています。最も少ないのは「その他」で 3.5%です。経営改善の取組として、従業者研修の実施や人員確保・増員が多く挙げられています。

	第10期	第9期
経営指導又は診断を受けた	12.7%	8.6%
他の事業所との連携を図った	32.5%	36.8%
従事者を確保又は増員した	52.5%	49.1%
出資等による資金確保を行った	11.5%	5.8%
雇用条件を改善した	49.0%	47.5%
融資又は融資枠を確保した	15.3%	11.3%
従事者研修を実施した	56.1%	44.8%
ＰＲ活動を行った	44.6%	32.5%
相談・苦情処理体制を整備した	30.3%	27.9%
設備を改善した	36.6%	26.7%
介護テクノロジーを導入した	26.4%	
その他	3.5%	1.8%
特になし	4.1%	6.7%

2　介護サービスについて

問 4　貴事業所が現在、サービスを提供している地域をお答えください。（複数選択可）【第 10 期調査 n=319、第 9 期調査 n=334】

「鈴鹿市・亀山市全域」が 48.3%で最も多く、「鈴鹿市全域」が 25.1%で続いています。最も少ないのは「城西［亀山第 2］」と「坂下〔亀山第 2〕」で 1.3%です。

「鈴鹿市・亀山市全域」は第 9 期から第 10 期にかけて 1.3 ポイント増加しました。サービス提供地域は、「鈴鹿市・亀山市全域」を対象とする事業所が最も多い状況です。

	第10期	第9期
鈴鹿市・亀山市全域	48.3%	47.0%
鈴鹿市全域	25.1%	15.9%
亀山市全域	6.6%	9.6%
加佐登［鈴鹿第１］	8.5%	9.6%
石薬師［鈴鹿第１］	10.0%	7.2%
久間田［鈴鹿第１］	3.1%	2.7%
椿［鈴鹿第１］	3.8%	4.5%
深伊沢［鈴鹿第１］	3.4%	4.8%
鈴峰［鈴鹿第１］	4.1%	3.6%
庄内［鈴鹿第１］	4.7%	5.7%
国府［鈴鹿第２］	11.0%	11.7%
庄野［鈴鹿第２］	10.0%	9.6%
牧田［鈴鹿第２］	7.2%	7.8%
井田川［鈴鹿第２］	6.6%	5.1%
河曲［鈴鹿第３］	6.3%	6.3%
一ノ宮［鈴鹿第３］	8.5%	7.8%
神戸［鈴鹿第３］	12.9%	12.6%
長太［鈴鹿第４］	12.2%	12.3%
箕田［鈴鹿第４］	11.0%	11.1%
若松［鈴鹿第４］	12.9%	13.5%
玉桜［鈴鹿第５］	10.0%	8.7%
稲生［鈴鹿第６］	13.5%	13.2%
飯野［鈴鹿第６］	10.0%	6.0%
白子［鈴鹿第７］	16.3%	16.2%
鼓ヶ浦［鈴鹿第７］	10.0%	9.3%
愛宕［鈴鹿第７］	7.2%	9.3%
旭が丘［鈴鹿第７］	12.9%	12.9%
栄［鈴鹿第８］	4.4%	4.5%
郡山［鈴鹿第８］	7.5%	6.6%
天名［鈴鹿第８］	3.4%	3.3%
合川［鈴鹿第８］	3.1%	2.7%
井田川北［亀山第１］	7.8%	5.4%
井田川南［亀山第１］	6.6%	3.6%
川崎［亀山第１］	9.1%	4.2%
野登［亀山第１］	4.1%	3.6%
東部［亀山第１］	2.8%	2.4%
南部［亀山第１］	2.5%	1.8%
昼生［亀山第１］	1.6%	2.7%
白川［亀山第２］	1.9%	0.9%
神辺［亀山第２］	2.5%	0.0%
野村［亀山第２］	3.8%	1.8%
城東［亀山第２］	1.9%	0.3%
城西［亀山第２］	1.3%	0.0%
城北［亀山第２］	3.8%	0.0%
御幸［亀山第２］	1.9%	2.4%
本町［亀山第２］	3.4%	3.0%
北東［亀山第２］	1.6%	0.0%
天神･和賀［亀山第２］	3.1%	2.7%
関宿［亀山第２］	3.4%	2.4%
関北部［亀山第２］	1.6%	0.6%
関南部［亀山第２］	1.9%	0.6%
坂下［亀山第２］	1.3%	0.3%
加太［亀山第２］	1.9%	0.6%

問 5　貴事業所の所在地をお選びください。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=320、第 9 期調査 n=334】

「亀山第 2」が 14.4%で最も多く、「鈴鹿第 2」が 14.1%で続いています。最も少ないのは「鈴鹿第 5」で 5.3%です。

「亀山第 2」は第 9 期から第 10 期にかけて 1.2 ポイント増加しました。所在地は特定の圏域に大きく偏らず、複数の圏域に分布しています。

	第10期	第9期
鈴鹿第１	8.1%	10.5%
鈴鹿第２	14.1%	14.4%
鈴鹿第３	11.9%	12.3%
鈴鹿第４	8.1%	6.9%
鈴鹿第５	5.3%	4.5%
鈴鹿第６	11.6%	10.5%
鈴鹿第７	8.1%	9.9%
鈴鹿第８	5.6%	3.9%
亀山第１	12.8%	14.1%
亀山第２	14.4%	13.2%

問 6　貴事業所において実施されているサービスはどれですか。（複数選択可）
【第 10 期調査 n=328、第 9 期調査 n=351】

「通所介護＜介護・居宅＞」が 32.0%で最も多く、「訪問介護＜介護・居宅＞」が 29.9%で続いています。

「通所介護＜介護・居宅＞」は第 9 期から第 10 期にかけて 0.9 ポイント増加しました。通所介護や訪問介護を中心に、幅広いサービスが提供されています。

	第10期	第9期
訪問介護＜介護・居宅＞	29.9%	27.4%
訪問入浴介護＜介護・居宅＞	1.2%	1.7%
訪問看護＜介護・居宅＞	13.1%	7.4%
訪問リハビリテーション＜介護・居宅＞	5.2%	3.4%
居宅療養管理指導＜介護・居宅＞	0.0%	0.3%
通所介護＜介護・居宅＞	32.0%	31.1%
通所リハビリテーション＜介護・居宅＞	6.4%	5.1%
短期入所生活介護＜介護・居宅＞	10.4%	10.0%
短期入所療養介護＜介護・居宅＞	3.0%	3.7%
特定施設入居者生活介護＜介護・居宅＞	3.0%	1.7%
福祉用具貸与＜介護・居宅＞	3.4%	3.4%
福祉用具販売＜介護・居宅＞	3.0%	2.6%
住宅改修＜介護・居宅＞	2.4%	2.3%
認知症対応型通所介護 ＜介護・地域密着型＞	4.3%	2.6%
小規模多機能型居宅介護 ＜介護・地域密着型＞	1.2%	1.4%
認知症対応型共同生活介護 ＜介護・地域密着型＞	11.6%	12.0%
地域密着型特定施設入居者生活介護 ＜介護・地域密着型＞	0.3%	0.6%
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護＜介護・地域密着型＞	0.6%	1.1%
地域密着型通所介護 ＜介護・地域密着型＞	7.9%	10.8%
看護小規模多機能型居宅介護 ＜介護・地域密着型＞	1.5%	0.6%
介護老人福祉施設＜介護保険施設＞	7.6%	8.8%
介護老人保健施設＜介護保険施設＞	5.2%	3.7%
介護療養型医療施設＜介護保険施設＞	0.0%	0.0%
介護医療院＜介護保険施設＞	0.0%	0.0%

	第10期	第9期
介護予防訪問入浴介護＜予防・居宅＞	0.3%	1.4%
介護予防訪問看護＜予防・居宅＞	5.2%	4.3%
介護予防訪問リハビリテーション＜予防・居宅＞	5.2%	3.1%
介護予防居宅療養管理指導＜予防・居宅＞	0.0%	0.0%
介護予防通所リハビリテーション＜予防・居宅＞	6.1%	4.8%
介護予防短期入所生活介護＜予防・居宅＞	7.0%	9.4%
介護予防短期入所療養介護＜予防・居宅＞	3.0%	2.6%
介護予防特定施設入居者生活介護＜予防・居宅＞	0.9%	0.9%
介護予防福祉用具貸与＜予防・居宅＞	1.8%	1.7%
介護予防福祉用具販売＜予防・居宅＞	1.5%	1.7%
介護予防住宅改修＜予防・居宅＞	0.9%	1.7%
介護予防認知症対応型通所介護＜予防・地域密着型＞	1.8%	2.6%
介護予防小規模多機能型居宅介護＜予防・地域密着型＞	1.2%	0.6%
介護予防認知症対応型共同生活介護＜予防・地域密着型＞	6.4%	5.1%
訪問型サービス＜総合事業＞	22.0%	17.7%
通所型サービス＜総合事業＞	27.1%	27.1%
養護老人ホーム＜その他＞	0.3%	0.9%
軽費老人ホーム＜その他＞	0.9%	1.4%
有料老人ホーム（特定施設を除く）＜その他＞	4.3%	6.3%
サービス付き高齢者向け住宅（特定施設を除く）＜その他＞	11.3%	9.7%

問 7　貴事業所におけるサービス提供はどのような状況ですか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=319、第 9 期調査 n=345】

「稼働できる限度一杯で提供している」が 34.2%で最も多く、「高い利用率だが、受け入れる余裕はある」が 30.1%で続いています。最も少ないのは「低い利用率である」で 15.7%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「稼働できる限度一杯で提供している」が 4.1 ポイント増加しました。「稼働できる限度一杯で提供している」と「高い利用率だが、受け入れる余裕はある」を合わせると 6 割を超えています。

	第10期	第9期
稼働できる限度一杯で提供している	34.2%	30.1%
定員に達していないが、人員面で限度一杯である	20.1%	19.7%
高い利用率だが、受け入れる余裕はある	30.1%	28.7%
低い利用率である	15.7%	21.4%

問 8　サービスについて、事業を運営する上での課題は何ですか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=328、第 9 期調査 n=349】

「職員の育成」が 53.7%で最も多く、「介護報酬が低い」が 39.6%で続いています。最も少ないのは「インフォーマル情報が入手できない」で 1.2%です。課題としては、職員の育成や介護報酬の水準が多く挙げられています。

	第10期	第9期
困難事例が多い	13.1%	9.7%
利用者や家族が介護保険制度やサービスをよく知らない	11.9%	15.2%
利用者等からの苦情の対応	4.3%	5.4%
利用者等からのハラスメント（セクハラ、カスハラ等）への対応	18.0%	
利用者の身体等の状況の把握が難しい	2.4%	4.6%
設備・職員等が不足し、利用者のニーズに応えられない	26.8%	23.5%
職員の育成	53.7%	48.7%
職員が短期間に離職する	9.8%	8.0%
超過勤務、休日出勤が多い	9.1%	6.3%
新規利用者の獲得が困難	31.4%	29.8%
利用者数が定数に満たない	26.5%	27.2%
利用者のサービス利用量が少ない	7.0%	6.9%
介護報酬が低い	39.6%	30.9%
他の事業所との競合が激しい	23.8%	18.1%
サービス提供地域が広範囲なため非効率	8.5%	4.9%
介護保険制度（介護報酬・総合事業等）に関する情報が速やかに入手できない	2.4%	1.4%
法令や制度改正等の内容を十分理解できない	4.6%	2.6%
インフォーマル情報が入手できない	1.2%	2.6%
他の事業所との連携	5.5%	9.2%
医療機関との連携	6.7%	12.3%
市・広域連合との連携	4.9%	5.2%
地域包括支援センターとの連携	3.0%	5.7%
その他	3.4%	5.2%
特に課題はない	5.5%	5.4%

問 9　貴事業所において、サービスの質的向上を図る上での課題は何だと思いますか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=322、第 9 期調査 n=344】

「担当者間でのレベルの差が大きい」が 51.9%で最も多く、「適切な研修の機会が不足している」が 25.5%で続いています。最も少ないのは「第三者評価が活用されていない」で 8.7%です。

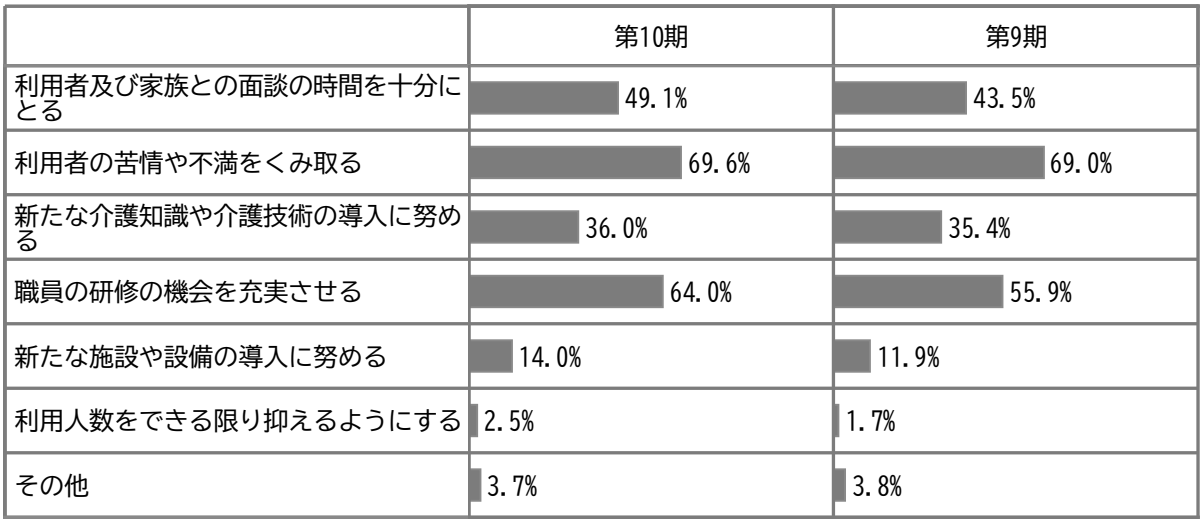
第 9 期から第 10 期にかけて「担当者間でのレベルの差が大きい」は 6.6 ポイント増加しました。サービスの質的向上に向けては、担当者間のレベル差や研修機会の不足が多く挙げられています。

	第10期	第9期
担当者間でのレベルの差が大きい	51.9%	45.3%
職員の入れ替わりが激しい	11.5%	13.1%
利用者の声がサービスの質的向上に生かされていない	10.6%	11.6%
適切な研修の機会が不足している	25.5%	35.5%
第三者評価が活用されていない	8.7%	6.1%
その他	9.3%	7.3%
特に課題はない	16.1%	15.1%

問 10　サービスの質を高めるために貴事業所が行っていることはどのようなことですか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=322、第 9 期調査 n=345】

「利用者の苦情や不満をくみ取る」が 69.6%で最も多く、「職員の研修の機会を充実させる」が 64.0%で続いています。最も少ないのは「利用人数をできる限り抑えるようにする」で 2.5%です。

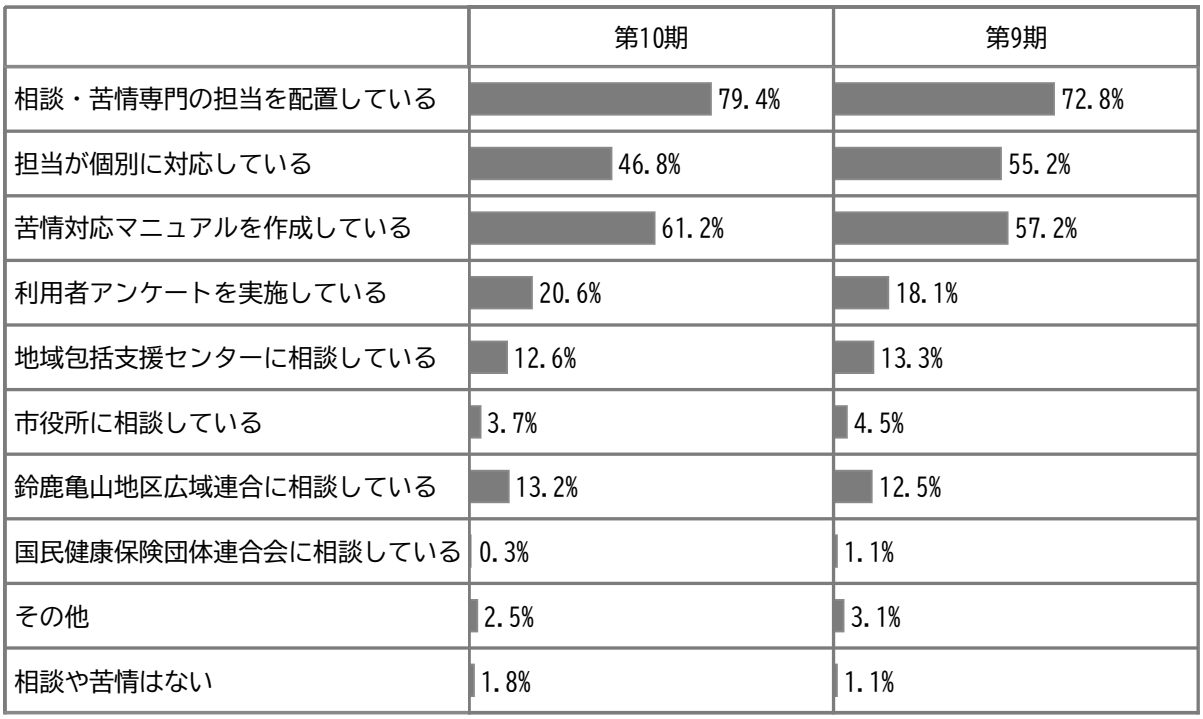
第 9 期から第 10 期にかけて「職員の研修の機会を充実させる」が 8.1 ポイント増加しました。利用者対応と職員研修を重視した取組が中心となっています。



問 11　貴事業所では、利用者や家族からの相談や苦情についてどのように対応していますか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=325、第 9 期調査 n=353】

「相談・苦情専門の担当を配置している」が 79.4%で最も多く、「苦情対応マニュアルを作成している」が 61.2%で続いています。最も少ないのは「国民健康保険団体連合会に相談している」で 0.3%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「相談・苦情専門の担当を配置している」が 6.6 ポイント増加しました。相談・苦情への対応では、担当配置やマニュアル整備が進められていることがうかがえます。



問 12　貴事業所は、今後、どのようにサービスを展開していこうとお考えですか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=321、第 9 期調査 n=346】

「現状維持」が 74.8%で最も多く、「現在実施しているサービスの事業拡大」が 11.8%で続いています。

第 9 期から第 10 期にかけて大きな変化はみられません。現状維持が最も多く、事業展開の方向に大きな変化はみられません。

	第10期	第9期
現在実施しているサービスの事業拡大	11.8%	7.2%
現在実施しているサービスの事業拡大を図りつつ、未実施のサービスへの事業拡大	6.9%	12.1%
未実施のサービスへの事業拡大	2.2%	2.9%
現状維持	74.8%	74.9%
サービス種類を絞り込み、集中して実施	0.9%	0.6%
現在実施しているサービスの事業縮小	0.9%	1.4%
早い時期に事業撤退	0.9%	0.3%
その他	1.6%	0.6%

問 12-②　問 12 で「現在実施しているサービスの事業拡大」～「未実施のサービスへの事業拡大」と回答した事業所にお伺いします。貴事業所において今後、参入・拡充を考えている介護保険サービスはありますか。（複数選択可、施設サービスについては定員も記入）【第 10 期調査 n=57、第 9 期調査 n=64】

「居宅介護支援＜介護・居宅＞」が 31.6%で最も多く、「訪問看護＜介護・居宅＞」が 21.1%で続いています。

「居宅介護支援＜介護・居宅＞」は第 9 期から第 10 期にかけて 16.0 ポイント増加しました。今後の参入・拡充先としては、「居宅介護支援＜介護・居宅＞」や「訪問看護＜介護・居宅＞」が多く挙げられています。

	第10期	第9期
居宅介護支援＜介護・居宅＞	31.6%	15.6%
訪問介護＜介護・居宅＞	19.3%	12.5%
訪問入浴介護＜介護・居宅＞	0.0%	1.6%
訪問看護＜介護・居宅＞	21.1%	12.5%
訪問リハビリテーション＜介護・居宅＞	1.8%	1.6%
居宅療養管理指導＜介護・居宅＞	0.0%	0.0%
通所介護＜介護・居宅＞	17.5%	14.1%
通所リハビリテーション＜介護・居宅＞	0.0%	1.6%
短期入所生活介護＜介護・居宅＞	3.5%	6.3%
短期入所療養介護＜介護・居宅＞	0.0%	0.0%
特定施設入居者生活介護＜介護・居宅＞	3.5%	15.6%
福祉用具貸与＜介護・居宅＞	19.3%	3.1%
福祉用具販売＜介護・居宅＞	7.0%	3.1%
住宅改修＜介護・居宅＞	5.3%	1.6%
認知症対応型通所介護 ＜介護・地域密着型＞	0.0%	4.7%
小規模多機能型居宅介護 ＜介護・地域密着型＞	0.0%	6.3%
認知症対応型共同生活介護 ＜介護・地域密着型＞	1.8%	3.1%
地域密着型特定施設入居者生活介護 ＜介護・地域密着型＞	0.0%	0.0%
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護＜介護・地域密着型＞	0.0%	0.0%
地域密着型通所介護 ＜介護・地域密着型＞	0.0%	3.1%
看護小規模多機能型居宅介護 ＜介護・地域密着型＞	1.8%	0.0%
定期巡回・随時対応型訪問介護看護 ＜介護・地域密着型＞	1.8%	1.6%
夜間対応型訪問介護 ＜介護・地域密着型＞	0.0%	0.0%
介護老人福祉施設＜介護保険施設＞	7.0%	1.6%
介護老人保健施設＜介護保険施設＞	0.0%	0.0%
介護医療院＜介護保険施設＞	0.0%	0.0%

	第10期	第9期
介護予防支援＜予防・居宅＞	7.0%	1.6%
介護予防訪問入浴介護＜予防・居宅＞	0.0%	0.0%
介護予防訪問看護＜予防・居宅＞	5.3%	3.1%
介護予防訪問リハビリテーション＜予防・居宅＞	0.0%	0.0%
介護予防居宅療養管理指導＜予防・居宅＞	0.0%	0.0%
介護予防通所リハビリテーション＜予防・居宅＞	0.0%	1.6%
介護予防短期入所生活介護＜予防・居宅＞	1.8%	1.6%
介護予防短期入所療養介護＜予防・居宅＞	0.0%	0.0%
介護予防特定施設入居者生活介護＜予防・居宅＞	3.5%	3.1%
介護予防福祉用具貸与＜予防・居宅＞	5.3%	0.0%
介護予防福祉用具販売＜予防・居宅＞	5.3%	0.0%
介護予防住宅改修＜予防・居宅＞	5.3%	0.0%
介護予防認知症対応型通所介護＜予防・地域密着型＞	0.0%	1.6%
介護予防小規模多機能型居宅介護＜予防・地域密着型＞	0.0%	1.6%
介護予防認知症対応型共同生活介護＜予防・地域密着型＞	3.5%	1.6%
訪問型サービス＜総合事業＞	1.8%	7.8%
通所型サービス＜総合事業＞	8.8%	12.5%
その他	17.5%	18.8%

問 12-②-19　地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護〔定員〕
【第 10 期調査 n=0、第 9 期調査 n=0】

該当する回答はありませんでした。

問 12-②-24　介護老人福祉施設〔定員〕【第 10 期調査 n=4、第 9 期調査 n=1】

「80～99 人」が 100.0%となっています。

第 9 期調査では「30～59 人」が 100.0%でしたが、第 10 期調査では「80～99 人」に回答が集まっています。なお、回答数が少ないため、参考値としてみる必要があります。

	第10期	第9期
29人以下	0.0%	0.0%
30～59人	0.0%	100.0%
60～79人	0.0%	0.0%
80～99人	100.0%	0.0%
100人以上	0.0%	0.0%

問 12-②-25　介護老人保健施設〔定員〕【第 10 期調査 n=0、第 9 期調査 n=0】

該当する回答はありませんでした。

問 12-②-26　介護医療院〔定員〕【第 10 期調査 n=0、第 9 期調査 n=0】

該当する回答はありませんでした。

問 13　看護小規模多機能型居宅介護サービスへの参入について、貴事業所ではどのようにお考えですか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=316】

「参入は検討していない」が 70.6%で最も多く、「わからない」が 26.9%で続いています。「参入は検討していない」が 7 割台で、参入意向は限定的であることがうかがえます。

	第10期
４年以内の参入を検討中	0.0%
参入を検討したが、断念した	2.5%
参入は検討していない	70.6%
わからない	26.9%

問 13-②　問 13 で「参入を検討したが、断念した」または「参入は検討していない」と回答した事業所にお伺いします。参入を断念した、または参入を検討していない理由を教えてください。（複数選択可）【第 10 期調査 n=229】

「事業を行うだけの人材を集めることができないから」が 66.8%で最も多く、「事業経営において、人件費等採算が見込めないから」が 41.9%で続いています。最も少ないのは「その他」で 7.0%です。参入を断念した、または検討していない理由としては、人材確保の難しさと採算性への懸念が多く挙げられています。

	第10期
利用者のニーズが見込めないから	7.4%
事業経営において、人件費等採算が見込めないから	41.9%
事業を行うだけの人材を集めることができないから	66.8%
用地、施設、設備面を整えることができないから	38.9%
この事業を行うノウハウ、スキルを整えることができないから	32.8%
その他	7.0%

問 14　定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスへの参入について、貴事業所ではどのようにお考えですか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=316】

「参入は検討していない」が 68.0%で最も多く、「わからない」が 30.1%で続いています。最も少ないのは「4 年以内の参入を検討中」で 0.3%です。「参入は検討していない」が約 7 割で、参入意向は限定的であることがうかがえます。

	第10期
４年以内の参入を検討中	0.3%
参入を検討したが、断念した	1.6%
参入は検討していない	68.0%
わからない	30.1%

問 14-②　問 14 で「参入を検討したが、断念した」または「参入は検討していない」と回答した事業所にお伺いします。参入を断念した、または参入を検討していない理由を教えてください。（複数選択可）【第 10 期調査 n=214】

「事業を行うだけの人材を集めることができないから」が 72.4%で最も多く、「事業経営において、人件費等採算が見込めないから」が 45.3%で続いています。最も少ないのは「その他」で 5.6%です。参入を断念した、または検討していない理由としては、人材確保の難しさと採算性への懸念が多く挙げられています。

	第10期
利用者のニーズが見込めないから	13.6%
事業経営において、人件費等採算が見込めないから	45.3%
事業を行うだけの人材を集めることができないから	72.4%
用地、施設、設備面を整えることができないから	29.0%
この事業を行うノウハウ、スキルを整えることができないから	33.6%
その他	5.6%

問 15　今後、事業を展開していく上での課題は何ですか。（複数選択可）
【第 10 期調査 n=326、第 9 期調査 n=345】

「人材の育成、確保」が 89.3%で最も多く、「利用者の確保」が 65.6%で続いています。最も少ないのは「その他」で 1.5%です。今後の課題としては、「人材の育成、確保」と「利用者の確保」が多く挙げられています。

	第10期	第9期
人材の育成、確保	89.3%	86.7%
地域社会での信頼の確保	36.2%	21.7%
利用者の確保	65.6%	53.6%
サービスの質の向上	60.1%	49.0%
事業規模の拡大	9.2%	10.4%
合理化の実施	16.3%	10.1%
介護テクノロジーの導入	24.8%	
電子化などＩＣＴの活用	35.0%	
保険者（市）との連携	10.7%	10.1%
事業所間の連携	14.1%	10.7%
介護保険制度のＰＲ	4.6%	1.7%
知名度の向上	16.6%	12.2%
その他	1.5%	1.4%

問 16　運営指導について、どのように感じていますか。（複数選択可）
【第 10 期調査 n=303、第 9 期調査 n=305】

「制度に対する理解が深まった」が 63.4%で最も多く、「事業所内で意識が共有できた」が 43.6%で続いています。最も少ないのは「思ったよりも拘束時間が長かった」で 4.3%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「制度に対する理解が深まった」が 10.0 ポイント増加しました。運営指導については、制度理解の深化や事業所内での意識共有につながっていることがうかがえます。

	第10期	第9期
制度に対する理解が深まった	63.4%	53.4%
事業所内で意識が共有できた	43.6%	35.4%
書類やデータが整理できた	39.6%	25.6%
準備が大変だった	21.1%	16.7%
思ったよりも拘束時間が長かった	4.3%	3.9%
その他	6.6%	12.5%

3　介護人材について

問 17-1　貴事業所における介護職員の総数【常勤職員】
【第 10 期調査 n=318、第 9 期調査 n=348】

「1～4 人」が 42.5%で最も多く、「5～9 人」が 31.4%で続いています。最も少ないのは「40 人以上」で 1.6%です。

「1～4 人」は第 9 期から第 10 期にかけて 2.0 ポイント増加しました。常勤職員数は「1～4 人」が最も多く、小規模な人員体制の事業所が多いことがうかがえます。

	第10期	第9期
0人	4.7%	3.4%
1～4人	42.5%	40.5%
5～9人	31.4%	29.0%
10～19人	13.5%	17.5%
20～39人	6.3%	7.2%
40人以上	1.6%	2.3%

問 17-2　貴事業所における介護職員の総数【非常勤職員】
【第 10 期調査 n=310、第 9 期調査 n=332】

「1～4 人」が 40.6%で最も多く、「5～9 人」が 32.6%で続いています。

「1～4 人」は第 9 期から第 10 期にかけて 8.1 ポイント増加しました。非常勤職員数も「1～4 人」が最も多く、少人数体制の事業所が多い状況です。

	第10期	第9期
0人	8.1%	16.0%
1～4人	40.6%	32.5%
5～9人	32.6%	27.1%
10～19人	16.1%	20.2%
20～39人	2.6%	2.4%
40人以上	0.0%	1.8%

問 18-1　過去 1 年間（令和 7 年 1 月 1 日～令和 7 年 12 月 31 日）の介護職員の採用者数と離職者数をお答えください。【採用者数】
【第 10 期調査 n=308、第 9 期調査 n=343】

「0 人」が 33.1%で最も多く、「2～3 人」が 23.7%で続いています。最も少ないのは「10 人以上」で 3.2%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「0 人」は 3.4 ポイント増加しました。採用者数は「0 人」が最も多く、採用がない事業所も一定数みられます。

	第10期	第9期
0人	33.1%	29.7%
1人	21.8%	24.5%
2～3人	23.7%	26.5%
4～5人	12.0%	8.7%
6～9人	6.2%	5.8%
10人以上	3.2%	4.7%

問 18-2　過去 1 年間（令和 7 年 1 月 1 日～令和 7 年 12 月 31 日）の介護職員の採用者数と離職者数をお答えください。【離職者数】
【第 10 期調査 n=302、第 9 期調査 n=340】

「0 人」が 35.4%で最も多く、「1 人」が 25.2%で続いています。最も少ないのは「10 人以上」で 0.7%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「0 人」は 3.3 ポイント増加しました。離職者数は「0 人」が最も多い一方、「1 人」も 4 分の 1 程度みられます。

	第10期	第9期
0人	35.4%	32.1%
1人	25.2%	26.5%
2～3人	20.5%	24.4%
4～5人	9.9%	10.0%
6～9人	8.3%	3.2%
10人以上	0.7%	3.8%

問 19　過去 1 年間（令和 7 年 1 月 1 日～令和 7 年 12 月 31 日）、貴事業所における介護人材の確保について、おおむねどのような状況ですか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=314、第 9 期調査 n=346】

「おおむね確保できている」が 41.7%で最も多く、「あまり確保できていない」が 28.3%で続いています。最も少ないのは「確保できていない」で 11.5%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「おおむね確保できている」は 2.2 ポイント減少しました。介護人材の確保については、「おおむね確保できている」が最も多い一方、十分に確保できていない事業所もみられます。

	第10期	第9期
確保できている	18.5%	17.3%
おおむね確保できている	41.7%	43.9%
あまり確保できていない	28.3%	30.1%
確保できていない	11.5%	8.7%

問 20　過去 1 年間（令和 7 年 1 月 1 日～令和 7 年 12 月 31 日）、貴事業所における職員の定着について、おおむねどのような状況ですか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=317、第 9 期調査 n=351】

「たまに離職者がいるが、ほぼ安定している」が 50.8%で最も多く、「定着し安定している」が 31.9%で続いています。最も少ないのは「その他」で 4.7%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「たまに離職者がいるが、ほぼ安定している」は 2.4 ポイント増加しました。職員の定着はおおむね安定している事業所が多いものの、離職がみられる事業所も一定数あります。

	第10期	第9期
定着し安定している	31.9%	34.5%
たまに離職者がいるが、ほぼ安定している	50.8%	48.4%
離職者が多く、不安定である	12.6%	16.0%
その他	4.7%	1.1%

問 21　貴事業所においては、どの職種がどれぐらい不足していますか。（当てはまるものに○を付け、不足する人数を常勤換算で〔〕内に記入）
【第 10 期調査 n=203、第 9 期調査 n=206】

「介護福祉士」が 56.7%で最も多く、「看護師」が 30.0%で続いています。

「介護福祉士」は第 9 期から第 10 期にかけて 2.3 ポイント増加しました。不足している職種としては、「介護福祉士」と「看護師」が多く挙げられています。

	第10期	第9期
介護支援専門員（ケアマネジャー）	13.3%	7.8%
訪問介護員（ホームヘルパー）	29.6%	30.6%
介護福祉士	56.7%	54.4%
精神保健福祉士	0.0%	0.0%
各種相談員	5.9%	5.8%
調理師、栄養士	4.9%	3.9%
医師、歯科医師	0.0%	1.0%
看護師	30.0%	17.0%
薬剤師	0.0%	0.0%
理学療法士、作業療法士	14.8%	17.0%
言語聴覚士、視能訓練士	6.9%	2.9%
その他	4.9%	9.2%

問 21-1　介護支援専門員（ケアマネジャー）〔不足している人数〕
【第 10 期調査 n=27、第 9 期調査 n=15】

「1 人」が 77.8%で最も多く、「2 人」が 22.2%で続いています。

「1 人」は第 9 期から第 10 期にかけて 8.9 ポイント減少しました。不足人数は「1 人」が最も多く、「2 人」も一定数みられます。

	第10期	第9期
１人	77.8%	86.7%
２人	22.2%	13.3%
３人	0.0%	0.0%
４人	0.0%	0.0%
５人	0.0%	0.0%
６人以上	0.0%	0.0%

問 21-2　訪問介護員（ホームヘルパー）〔不足している人数〕
【第 10 期調査 n=58、第 9 期調査 n=58】

「2 人」が 51.7%で最も多く、「3 人」が 24.1%で続いています。

第 9 期から第 10 期にかけて「2 人」が 10.3 ポイント増加しました。不足人数は「2 人」が最も多く、次いで「3 人」が続いています。

	第10期	第9期
１人	20.7%	36.2%
２人	51.7%	41.4%
３人	24.1%	20.7%
４人	0.0%	1.7%
５人	3.4%	0.0%
６人以上	0.0%	0.0%

問 21-3　介護福祉士〔不足している人数〕
【第 10 期調査 n=115、第 9 期調査 n=109】

「1 人」が 47.0%で最も多く、「2 人」が 34.8%で続いています。最も少ないのは「4 人」で 1.7%です。

「1 人」は第 9 期から第 10 期にかけて 3.9 ポイント増加しました。不足人数は「1 人」が最も多く、「2 人」も 3 割台みられます。

	第10期	第9期
１人	47.0%	43.1%
２人	34.8%	36.7%
３人	9.6%	12.8%
４人	1.7%	1.8%
５人	4.3%	3.7%
６人以上	2.6%	1.8%

問 21-4　精神保健福祉士〔不足している人数〕
【第 10 期調査 n=0、第 9 期調査 n=0】

該当する回答はありませんでした。

問 21-5　各種相談員〔不足している人数〕【第 10 期調査 n=12、第 9 期調査 n=12】

「1 人」が 100.0%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて変化はみられません。回答数が少ないため、参考値としてみる必要があります。

	第10期	第9期
１人	100.0%	100.0%
２人	0.0%	0.0%
３人	0.0%	0.0%
４人	0.0%	0.0%
５人	0.0%	0.0%
６人以上	0.0%	0.0%

問 21-6　調理師、栄養士〔不足している人数〕
【第 10 期調査 n=10、第 9 期調査 n=8】

「1 人」が 80.0%で最も多く、「2 人」が 20.0%で続いています。

第 9 期から第 10 期にかけて「1 人」は 20.0 ポイント減少しました。「1 人」が最も多く、「2 人」も 2 割みられます。

	第10期	第9期
１人	80.0%	100.0%
２人	20.0%	0.0%
３人	0.0%	0.0%
４人	0.0%	0.0%
５人	0.0%	0.0%
６人以上	0.0%	0.0%

問 21-7　医師、歯科医師〔不足している人数〕
【第 10 期調査 n=0、第 9 期調査 n=2】

第 10 期調査では該当する回答はありませんでした。

	第10期	第9期
１人	0.0%	100.0%
２人	0.0%	0.0%
３人	0.0%	0.0%
４人	0.0%	0.0%
５人	0.0%	0.0%
６人以上	0.0%	0.0%

問 21-8　看護師〔不足している人数〕【第 10 期調査 n=59、第 9 期調査 n=32】

「1 人」が 67.8%で最も多く、「2 人」が 15.3%で続いています。

「1 人」は第 9 期から第 10 期にかけて 7.2 ポイント減少しました。不足人数は「1 人」が最も多いものの、複数人を挙げる回答もみられます。

	第10期	第9期
１人	67.8%	75.0%
２人	15.3%	18.8%
３人	11.9%	6.3%
４人	1.7%	0.0%
５人	3.4%	0.0%
６人以上	0.0%	0.0%

問 21-9　薬剤師〔不足している人数〕【第 10 期調査 n=0、第 9 期調査 n=0】

該当する回答はありませんでした。

問 21-10　理学療法士、作業療法士〔不足している人数〕
【第 10 期調査 n=30、第 9 期調査 n=35】

「1 人」が 86.7%で最も多く、「2 人」が 10.0%で続いています。

第 9 期から第 10 期にかけて「1 人」が 3.8 ポイント増加しました。不足人数は「1 人」が大半を占めています。

	第10期	第9期
1人	86.7%	82.9%
2人	10.0%	8.6%
3人	3.3%	2.9%
4人	0.0%	5.7%
5人	0.0%	0.0%
6人以上	0.0%	0.0%

問 21-11　言語聴覚士、視能訓練士〔不足している人数〕
【第 10 期調査 n=14、第 9 期調査 n=6】

「1 人」が 100.0%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて大きな変化はみられません。回答はすべて「1 人」となっています。

	第10期	第9期
1人	100.0%	100.0%
2人	0.0%	0.0%
3人	0.0%	0.0%
4人	0.0%	0.0%
5人	0.0%	0.0%
6人以上	0.0%	0.0%

問 21-12　その他〔不足している人数〕【第 10 期調査 n=10、第 9 期調査 n=13】

「1 人」が 60.0%で最も多く、「2 人」が 30.0%で続いています。

「1 人」は第 9 期から第 10 期にかけて 13.8 ポイント増加しました。「1 人」が中心ですが、「2 人」も 3 割みられます。

	第10期	第9期
１人	60.0%	46.2%
２人	30.0%	38.5%
３人	10.0%	15.4%
４人	0.0%	0.0%
５人	0.0%	0.0%
６人以上	0.0%	0.0%

問 22　介護人材の不足に対し、どのようなことが求められると思いますか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=294、第 9 期調査 n=337】

「休職中・退職者の活用」が 48.6%で最も多く、「仕事の効率化」が 41.5%で続いています。最も少ないのは「その他」で 8.8%です。

「休職中・退職者の活用」は第 9 期から第 10 期にかけて 3.3 ポイント減少しました。求められることとしては、「休職中・退職者の活用」や「仕事の効率化」が多く挙げられています。

	第10期	第9期
大学・専門学校での人材育成	32.0%	37.1%
地域における人材育成	38.1%	46.9%
休職中・退職者の活用	48.6%	51.9%
外国人介護人材の活用	33.0%	16.9%
介護を支援する機器やシステムなど介護テクノロジーの活用	27.2%	13.6%
仕事の効率化	41.5%	38.3%
その他	8.8%	8.3%

4　施設・居住系の事業所における入退居の状況について

問 23-1　貴事業所の令和 8 年 1 月 1 日現在の定員、入所・入居待ち人数と入所・入居状況をご記入ください。【定員】【第 10 期調査 n=117、第 9 期調査 n=110】

「29 人以下」が 51.3%で最も多く、「30～59 人」が 33.3%で続いています。最も少ないのは「60～79 人」で 3.4%です。

「29 人以下」は第 9 期から第 10 期にかけて 6.0 ポイント減少しました。定員は「29 人以下」が最も多く、小規模な事業所が中心であることがうかがえます。

	第10期	第9期
29人以下	51.3%	57.3%
30～59人	33.3%	31.8%
60～79人	3.4%	2.7%
80～99人	6.0%	5.5%
100人以上	6.0%	2.7%

問 23-2　貴事業所の令和 8 年 1 月 1 日現在の定員、入所・入居待ち人数と入所・入居状況をご記入ください。【現在の入所・入居待ち人数】
【第 10 期調査 n=110、第 9 期調査 n=106】

「1～4 人」が 28.2%で最も多く、「0 人」が 26.4%で続いています。

「1～4 人」は第 9 期から第 10 期にかけて 0.8 ポイント増加しました。入所・入居待ち人数は「1～4 人」と「0 人」が中心です。

	第10期	第9期
0人	26.4%	33.0%
1～4人	28.2%	27.4%
5～9人	15.5%	7.5%
10～19人	10.9%	12.3%
20～39人	10.0%	7.5%
40～79人	9.1%	12.3%
80人以上	0.0%	0.0%

問 23-3　貴事業所の令和 8 年 1 月 1 日現在の定員、入所・入居待ち人数と入所・入居状況をご記入ください。【現在の入所・入居者数】
【第 10 期調査 n=114、第 9 期調査 n=110】

「29 人以下」が 59.6%で最も多く、「30～59 人」が 27.2%で続いています。最も少ないのは「60～79 人」と「100 人以上」で 3.5%です。

「29 人以下」は第 9 期から第 10 期にかけて 1.3 ポイント減少しました。現在の入所・入居者数は「29 人以下」が最も多く、小規模な人数帯が中心です。

	第10期	第9期
29人以下	59.6%	60.9%
30～59人	27.2%	30.9%
60～79人	3.5%	2.7%
80～99人	6.1%	3.6%
100人以上	3.5%	1.8%

問 23-4　貴事業所の令和 8 年 1 月 1 日現在の定員、入所・入居待ち人数と入所・入居状況をご記入ください。【うち、鈴鹿亀山地区広域連合管内の方】
【第 10 期調査 n=107、第 9 期調査 n=107】

「20～39 人」が 27.1%で最も多く、「5～9 人」が 23.4%で続いています。最も少ないのは「0 人」で 1.9%です。

「20～39 人」は第 9 期から第 10 期にかけて 4.7 ポイント減少しました。管内の方の人数は「20～39 人」が最も多いものの、「5～9 人」も 2 割台みられます。

	第10期	第9期
０人	1.9%	0.9%
１～４人	8.4%	4.7%
５～９人	23.4%	29.0%
10～19人	14.0%	18.7%
20～39人	27.1%	31.8%
40～79人	18.7%	11.2%
80人以上	6.5%	3.7%

問 24　過去 1 年間（令和 7 年 1 月 1 日～令和 7 年 12 月 31 日）に、貴事業所に新規で入所・入居した人の人数をご記入ください。
【第 10 期調査 n=108、第 9 期調査 n=108】

「1～4 人」が 31.5%で最も多く、「5～9 人」が 27.8%で続いています。最も少ないのは「0 人」で 0.9%です。

「1～4 人」は第 9 期から第 10 期にかけて 3.7 ポイント減少しました。新規の入所・入居者数は「1～4 人」が最も多く、「5～9 人」も 3 割弱みられます。

	第10期	第9期
０人	0.9%	4.6%
１～４人	31.5%	35.2%
５～９人	27.8%	24.1%
10～19人	15.7%	20.4%
20～39人	11.1%	11.1%
40～79人	6.5%	2.8%
80人以上	6.5%	1.9%

問 25　過去 1 年間（令和 7 年 1 月 1 日～令和 7 年 12 月 31 日）に、貴事業所を退去した人の人数をご記入ください。【第 10 期調査 n=109、第 9 期調査 n=107】

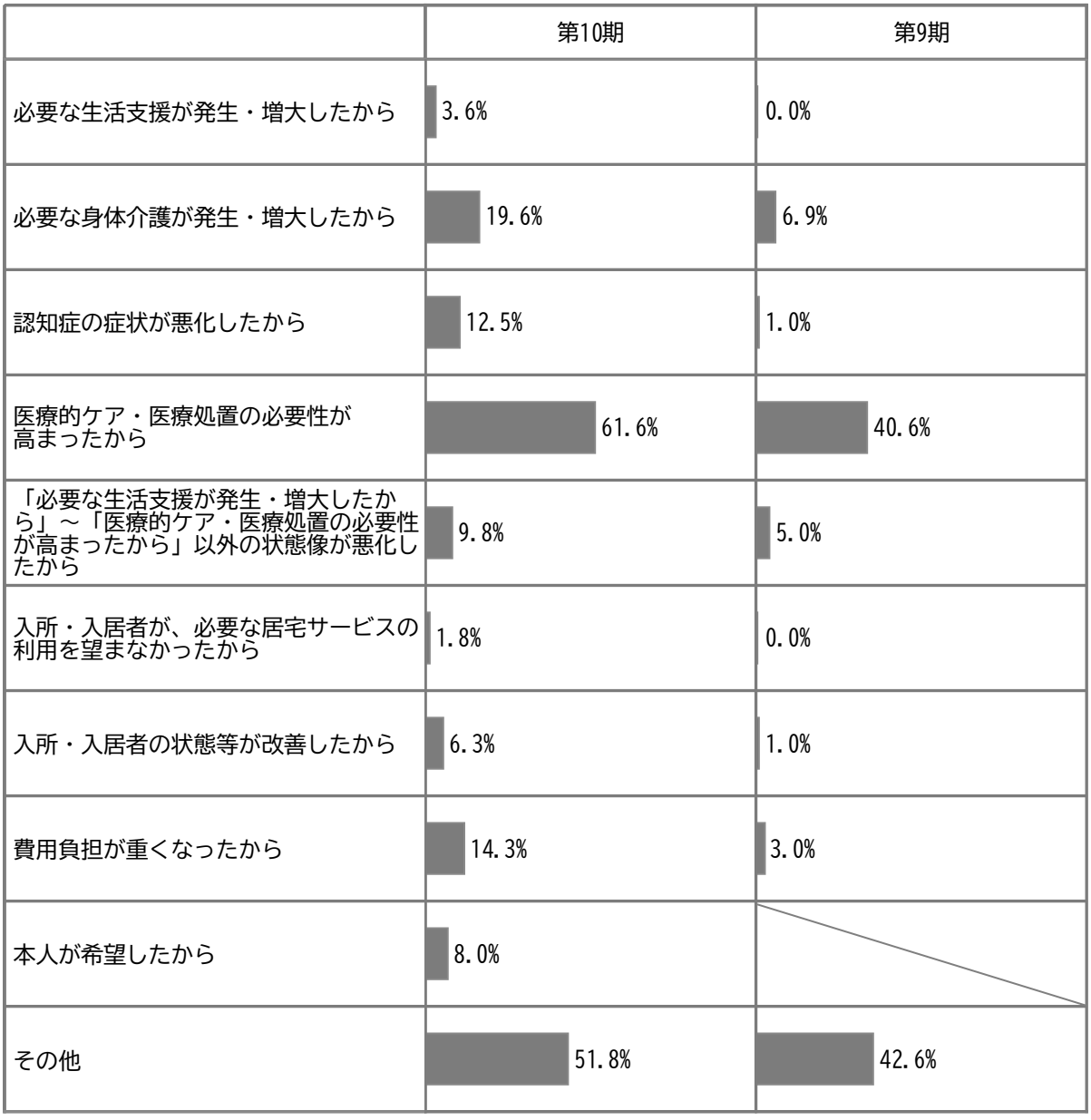
「1～4 人」が 33.0%で最も多く、「5～9 人」が 25.7%で続いています。最も少ないのは「0 人」で 4.6%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「1～4 人」が 5.0 ポイント増加しました。退去者数は「1～4 人」が最も多く、小規模な人数帯が中心です。

	第10期	第9期
０人	4.6%	7.5%
１～４人	33.0%	28.0%
５～９人	25.7%	29.0%
10～19人	14.7%	15.9%
20～39人	10.1%	15.9%
40～79人	6.4%	2.8%
80人以上	5.5%	0.9%

問 26　貴事業所の入居・入所者が、退去する理由は何ですか。退去理由として最も多いものを 3 つまで選んでください。【第 10 期調査 n=112、第 9 期調査 n=101】

「医療的ケア・医療処置の必要性が高まったから」が 61.6%で最も多く、「その他」が 51.8%で続いています。最も少ないのは「入所・入居者が、必要な居宅サービスの利用を望まなかったから」で 1.8%です。退去理由としては、「医療的ケア・医療処置の必要性が高まったから」が多く挙げられています。

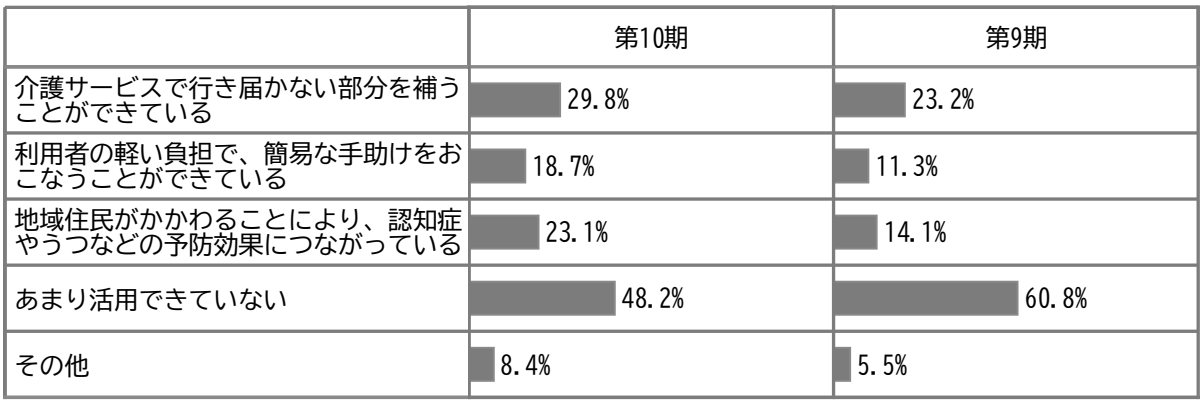


5　生活支援サービスについて

問 27　介護予防・日常生活支援総合事業におけるボランティアや NPO による介護や生活支援サービスについて、どのように認識されていますか。（複数選択可）
【第 10 期調査 n=299、第 9 期調査 n=311】

「あまり活用できていない」が 48.2%で最も多く、「介護サービスで行き届かない部分を補うことができている」が 29.8%で続いています。最も少ないのは「その他」で 8.4%です。

「あまり活用できていない」は第 9 期から第 10 期にかけて 12.6 ポイント減少しました。「あまり活用できていない」が最も多い一方、介護サービスで行き届かない部分を補う役割を認識する回答も 3 割程度みられます。



問 27-②　問 27 で「介護サービスで行き届かない部分を補うことができている」～「地域住民がかかわることにより、認知症やうつなどの予防効果につながっている」と回答した事業所にお伺いします。ボランティアや NPO は、具体的にどのような手助けをすることが有効だと思いますか。（複数選択可）
【第 10 期調査 n=132、第 9 期調査 n=105】

「話し相手になること」が 68.2%で最も多く、「ゴミ出し」が 58.3%で続いています。最も少ないのは「その他」で 2.3%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「話し相手になること」は 5.3 ポイント増加しました。有効な手助けとしては、「話し相手になること」や「ゴミ出し」など、日常生活に密着した支援が多く挙げられています。

	第10期	第9期
調理	19.7%	15.2%
掃除・洗濯	30.3%	20.0%
買い物(宅配は含まない)	31.1%	24.8%
ゴミ出し	58.3%	41.0%
外出同行(通院､買い物など)	49.2%	39.0%
見守り、声かけ	56.8%	56.2%
話し相手になること	68.2%	62.9%
相談相手になること	48.5%	48.6%
災害時の避難の手助け	40.9%	33.3%
防犯・防災のための巡回	26.5%	23.8%
住居内での困りごと支援 (家具移動や蛍光灯の取替など)	38.6%	35.2%
その他	2.3%	1.9%

問 27-③　問 27 で「あまり活用できていない」と回答した事業所にお伺いします。その理由は何ですか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=137、第 9 期調査 n=180】

「提供内容が分かりづらいから」が 40.1%で最も多く、「継続的に提供されるか不透明だから」が 37.2%で続いています。最も少ないのは「その他」で 11.7%です。

「提供内容が分かりづらいから」は第 9 期から第 10 期にかけて 3.2 ポイント減少しました。活用できていない理由としては、提供内容の分かりにくさや継続性への不透明感が多く挙げられています。

	第10期	第9期
提供量が少ないから	35.0%	35.6%
柔軟な対応ができないから	24.1%	16.1%
地域による差がみられるから	18.2%	11.7%
質を担保できないから	17.5%	18.3%
継続的に提供されるか不透明だから	37.2%	30.0%
提供内容が分かりづらいから	40.1%	43.3%
その他	11.7%	15.0%

6　権利擁護について

問 28　過去 1 年間（令和 7 年 1 月 1 日～令和 7 年 12 月 31 日）に、家族介護者等による虐待が疑われるケースにかかわったことがありますか。
【第 10 期調査 n=314、第 9 期調査 n=322】

「ない」が 92.0%、「ある」が 8.0%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「ない」が 0.7 ポイント増加しました。引き続き「ない」が大多数を占めています。

	第10期	第9期
ある	8.0%	8.7%
ない	92.0%	91.3%

問 28-1　過去 1 年間（令和 7 年 1 月 1 日～令和 7 年 12 月 31 日）に家族介護者等による虐待の疑われるケースにかかわった件数
【第 10 期調査 n=25、第 9 期調査 n=28】

「1 件」が 76.0%で最も多く、「2 件」が 20.0%で続いています。

「1 件」は第 9 期から第 10 期にかけて 6.1 ポイント減少しました。引き続き件数は「1 件」が中心です。

	第10期	第9期
１件	76.0%	82.1%
２件	20.0%	14.3%
３件	4.0%	0.0%
４件	0.0%	0.0%
５件	0.0%	3.6%
６～９件	0.0%	0.0%
10件以上	0.0%	0.0%

問 28-② 問 28 で「ある」と回答した方にお伺いします。貴事業所でかかわった虐待の疑われるケースは、次の分類で何件ずつになりますか。あてはまる分類すべてに○をつけ、件数を記入してください。【第 10 期調査 n=25、第 9 期調査 n=28】

「身体的虐待」が 52.0%で最も多く、「ネグレクト」と「経済的虐待」がいずれも 28.0%で続いています。

「身体的虐待」は第 9 期から第 10 期にかけて 12.3 ポイント減少しました。虐待が疑われるケースの分類では、「身体的虐待」が最も多くなっています。

	第10期	第9期
身体的虐待	52.0%	64.3%
ネグレクト	28.0%	28.6%
心理的虐待	8.0%	17.9%
経済的虐待	28.0%	17.9%
性的虐待	0.0%	0.0%
その他	4.0%	0.0%

問 28-②-1 身体的虐待 件数【第 10 期調査 n=13、第 9 期調査 n=18】

「1 件」が 92.3%で最も多く、「3 件」が 7.7%で続いています。

第 9 期から第 10 期にかけて「1 件」が 2.1 ポイント減少しましたが、引き続き件数は「1 件」が中心です。

	第10期	第9期
１件	92.3%	94.4%
２件	0.0%	5.6%
３件	7.7%	0.0%
４件	0.0%	0.0%
５件	0.0%	0.0%
６件以上	0.0%	0.0%

問 28-②-2　ネグレクト　件数【第 10 期調査 n=7、第 9 期調査 n=8】

「1 件」が 85.7%で最も多く、「2 件」が 14.3%で続いています。

第 9 期から第 10 期にかけて「1 件」が 1.8 ポイント減少しましたが、引き続き件数は「1 件」が中心です。

	第10期	第9期
1件	85.7%	87.5%
2件	14.3%	12.5%
3件	0.0%	0.0%
4件	0.0%	0.0%
5件	0.0%	0.0%
6件以上	0.0%	0.0%

問 28-②-3　心理的虐待　件数【第 10 期調査 n=2、第 9 期調査 n=5】

「1 件」が 100.0%となっています。回答数が少ないため、参考値としてみる必要があります。

	第10期	第9期
1件	100.0%	100.0%
2件	0.0%	0.0%
3件	0.0%	0.0%
4件	0.0%	0.0%
5件	0.0%	0.0%
6件以上	0.0%	0.0%

問 28-②-4　経済的虐待　件数【第 10 期調査 n=7、第 9 期調査 n=5】

「1 件」が 100.0%となっています。

「1 件」は第 9 期から第 10 期にかけて 20.0 ポイント増加しました。引き続き件数は「1 件」が中心です。

	第10期	第9期
1件	100.0%	80.0%
2件	0.0%	0.0%
3件	0.0%	0.0%
4件	0.0%	20.0%
5件	0.0%	0.0%
6件以上	0.0%	0.0%

問 28-②-5　性的虐待　件数【第 10 期調査 n=0、第 9 期調査 n=0】

該当する回答はありませんでした。

問 28-②-6　その他　件数【第 10 期調査 n=1、第 9 期調査 n=0】

「1 件」が 100.0%となっています。回答数が少ないため、参考値としてみる必要があります。

	第10期	第9期
1件	100.0%	0.0%
2件	0.0%	0.0%
3件	0.0%	0.0%
4件	0.0%	0.0%
5件	0.0%	0.0%
6件以上	0.0%	0.0%

問 28-③　貴事業所が虐待の疑われる事例にかかわったときに、どのような方法で対処しましたか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=23、第 9 期調査 n=28】

「地域包括支援センター、市役所、鈴鹿亀山地区広域連合など、他の施設・機関と連携して対処した」が 65.2%で最も多く、「施設・事業所内で対処した」が 30.4%で続いています。最も少ないのは「警察に通報した」で 4.3%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「地域包括支援センター、市役所、鈴鹿亀山地区広域連合など、他の施設・機関と連携して対処した」が 9.8 ポイント減少しました。対処方法としては、他の施設・機関と連携して対処した割合が最も高くなっています。

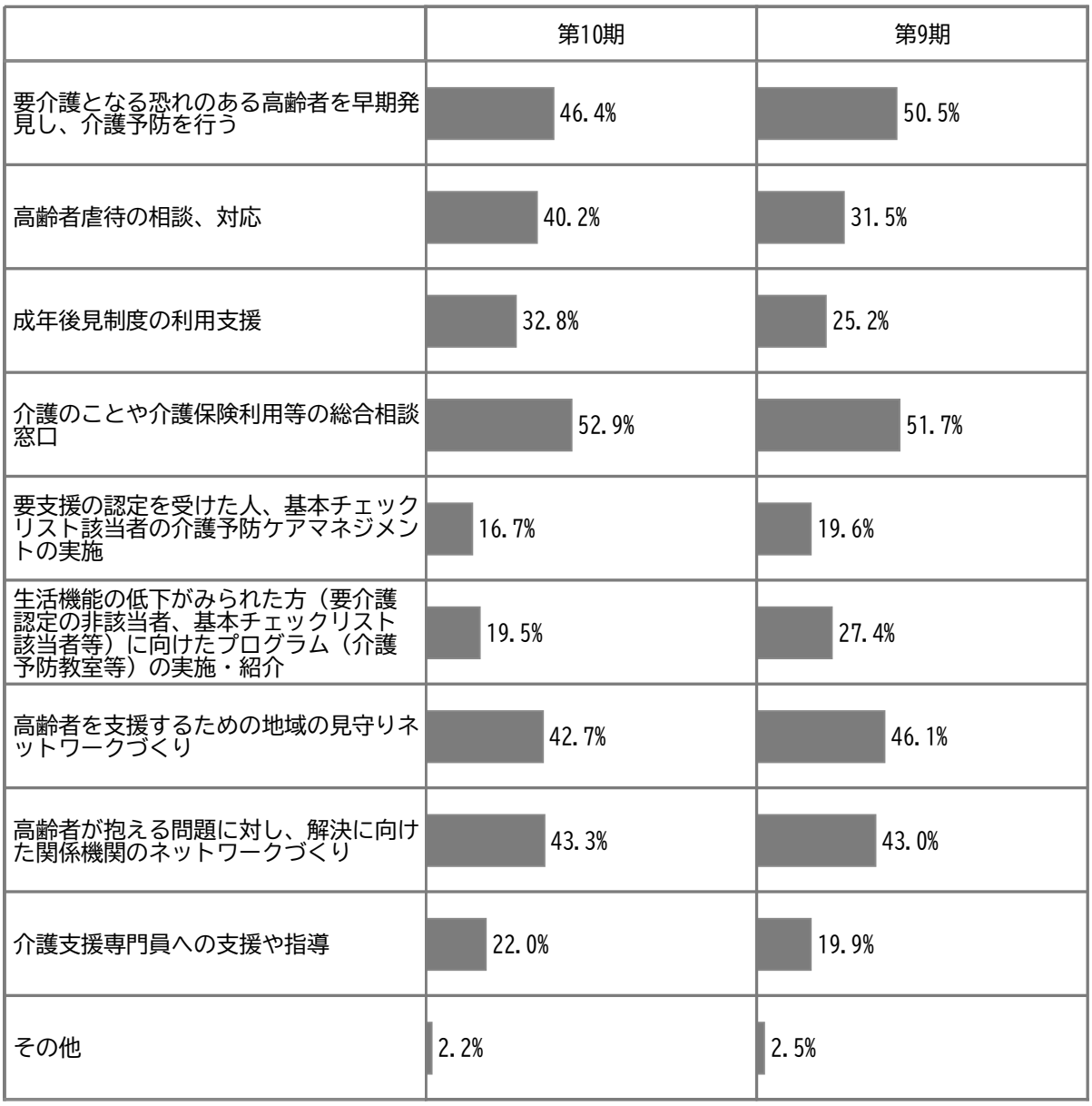
	第10期	第9期
施設・事業所内で対処した	30.4%	17.9%
地域包括支援センター、市役所、鈴鹿亀山地区広域連合など、他の施設・機関と連携して対処した	65.2%	75.0%
地域包括支援センター、市役所、鈴鹿亀山地区広域連合など、他の施設・機関に対処してもらった	8.7%	7.1%
警察に通報した	4.3%	0.0%
その他	17.4%	10.7%

7　地域包括ケアについて

問 29　地域包括支援センターには次のような役割があります。この役割のうち、充実を望むものはどれですか。（複数選択可）
【第 10 期調査 n=323、第 9 期調査 n=321】

「介護のことや介護保険利用等の総合相談窓口」が 52.9%で最も多く、「要介護となる恐れのある高齢者を早期発見し、介護予防を行う」が 46.4%で続いています。最も少ないのは「その他」で 2.2%です。

「介護のことや介護保険利用等の総合相談窓口」は第 9 期から第 10 期にかけて 1.2 ポイント増加しました。充実を望む役割としては、総合相談窓口や介護予防に関する機能が多く挙げられています。



問 30　鈴鹿亀山地区では「地域包括ケアシステム」の充実に向けて、地域ニーズと生活支援・介護予防サービス提供主体の活動とのマッチングを推進しています。地域に不足する生活支援・介護予防サービスの新たな創出に対して、貴事業所が地域貢献活動として協力（有償・無償は問わず）できるものはありますか（すでに協力しているものを含む）。（複数選択可）【第 10 期調査 n=313】

「高齢者の見守り・安否確認」が 43.1%で最も多く、「高齢者向けサロン・認知症カフェ等への空きスペースの提供」が 34.8%で続いています。最も少ないのは「その他」で 9.6%です。地域貢献活動として協力できるものでは、「高齢者の見守り・安否確認」や「高齢者向けサロン・認知症カフェ等への空きスペースの提供」が多く挙げられています。

	第10期
送迎を伴う外出支援（買い物・通院など）への空き車両の提供	17.6%
送迎を伴う外出支援（買い物・通院など）への空き車両と運転手の提供	21.1%
高齢者向けサロン・認知症カフェ等への空きスペースの提供	34.8%
高齢者の見守り・安否確認	43.1%
その他	9.6%
協力は考えていない	16.9%

問 31　鈴鹿亀山地区においては「地域包括ケアシステム」の深化・推進に向けて、さまざまな取組を進めていますが、どのような点で取組が進んでいると思いますか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=303、第 9 期調査 n=289】

「地域ケア会議の推進」が 42.2%で最も多く、「認知症施策の推進」が 32.0%で続いています。最も少ないのは「サービス提供基盤の整備」で 5.3%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「地域ケア会議の推進」は 5.2 ポイント増加しました。進んでいる取組としては、「地域ケア会議の推進」や「認知症施策の推進」が比較的多く挙げられています。

	第10期	第9期
地域ケア会議の推進	42.2%	37.0%
総合相談と情報提供の充実	28.7%	27.7%
介護予防の推進と生活支援サービスの充実	20.1%	24.2%
在宅療養生活の支援	8.6%	10.7%
認知症施策の推進	32.0%	25.3%
高齢者の尊厳の保持	12.9%	12.8%
家族介護者への支援	16.5%	19.0%
安定した居住環境の確保	5.6%	5.5%
サービス提供基盤の整備	5.3%	9.0%
災害や感染症への備えの充実	9.9%	11.4%
介護保険事業の健全運営	14.9%	12.8%
その他	10.2%	10.4%

問 32　家族の介護を理由とする離職者を減らすには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=322、第 9 期調査 n=327】

「職場の理解や就労環境の向上」が 66.8%で最も多く、「柔軟なサービス提供」が 48.4%で続いています。最も少ないのは「その他」で 3.7%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「職場の理解や就労環境の向上」は 9.6 ポイント増加しました。必要なこととしては、「職場の理解や就労環境の向上」や「柔軟なサービス提供」が多く挙げられています。

	第10期	第9期
職場の理解や就労環境の向上	66.8%	57.2%
介護サービスの周知	37.0%	30.6%
相談窓口の充実	36.6%	33.6%
介護サービスの充実	38.8%	39.8%
柔軟なサービス提供	48.4%	48.6%
介護施設の整備	12.7%	18.3%
保険外サービスの充実	28.0%	25.1%
費用負担の軽減	47.5%	37.9%
その他	3.7%	2.8%

問 33　利用者のご家族の中で、サービスを利用しているにも関わらず介護負担が軽減されていないと思われる人はいますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=310、第 9 期調査 n=341】

「いない」が 46.5%、「いる」が 29.7%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「いない」が 6.0 ポイント増加しました。「いない」が最も多い一方、「いる」も 3 割弱みられます。

	第10期	第9期
いる	29.7%	27.9%
いない	46.5%	40.5%
わからない	23.9%	31.7%

問 33-②　問 33 で「いる」と回答した事業所にお伺いします。介護負担が軽減されていないのは、主にどのようなことが原因だと思いますか。（複数選択可）
【第 10 期調査 n=92、第 9 期調査 n=95】

「介護者の性格のため（心配性、内向的など）」が 57.6%で最も多く、「利用限度額に至っている」が 53.3%で続いています。最も少ないのは「その他」で 7.6%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「介護者の性格のため（心配性、内向的など）」は 25.0 ポイント増加しました。介護負担が軽減されていない主な理由としては、「介護者の性格のため（心配性、内向的など）」や「利用限度額に至っている」が多く挙げられています。

	第10期	第9期
サービスが十分利用されていない	26.1%	30.5%
サービスが合っていない	8.7%	12.6%
利用限度額に至っている	53.3%	52.6%
休日・夜間などの介護が負担になっている	51.1%	47.4%
認知症の応対が負担になっている	50.0%	54.7%
介護者の性格のため（心配性、内向的など）	57.6%	32.6%
その他	7.6%	11.6%